

先月、「M-1グランプリ」に挑戦してきました。最初の挑戦は、大学の後輩、その後は小学校教員時代の同僚、娘と相方を変え、7回目の出場となります。今回の相方は、私の大学のゼミ生です。教育学部に所属するこの学生はとても面白い考え方を持っており、「学校の先生になる前にたくさん経験を重ねておきたい」と宣言し、大学を休学、その後、沖縄の石垣島にある牧場で住み込みの仕事を経験し、自然や命と向き合う日々

⑥4
ゼミ生の夢かけ
挑んだ「M-1」



を経て、今は「よしもと漫才劇場」で芸人さんをサポートする舞台進行として活躍しています。



私は大学生をしながら芸人をしていました。芸人になった理由は「学校の先生になる前にたくさん経験を重ねたい」という、今回のゼミ生とまったく同じ思いからでした。しかし、舞台やテレビへ

の出演など芸人生活は順調に進んだために初心を忘れ、「このまま芸人としてやっていけるかも？」という思いが芽生えていました。そんな時、私の出演番組の司会であった島田紳助師匠からアドバイスをいただきました。

「芸人での出会いや経験は大きな財産や。それを教育で生かし、夢を語る先生にならなさい」。葛藤もありましたが、この言葉に背中を押され、迷うことなく芸人を辞めて教育の世界へと進む決心を

しました。



あれから26年がたち、吉本興業で働く私のゼミ生から相談がありました。「舞台の仕事が楽しい。お笑いの作家になりたい」と夢を語りつつも、一方で「教師になることも捨てられない」と、当時の私と同じように迷っていました。紳助師匠のお言葉により私は決

練習も失敗も、人生照らす財産に

断できましたが、自分では師匠のような重みあるアドバイスはできません。そこで「才能を試すためにM-1グランプリに出場しよう！1回戦を通過できたらお笑いの作家を目指せばよい。しかし、落ちたら、才能がないとあきらめよう」と提案し、お笑い作家をめざすゼミ生がネタを作り、私と一緒に漫才をすることになりました。



人生をかけてネタを考える学生。後悔させまいと何度も練習する私。結果は不合格。しかし、結果発表後に「ありがとうございますま

した！」とすがすがしい声であいさつしてきた教える子の姿に迷いは感じられませんでした。今月で吉本を辞めて学生に戻り、来年3月に卒業、夏に小学校の教員採用試験に挑みます。

今の私はとても幸せです。師匠の言葉があつたから迷いなく後悔のない人生を歩んでこられました。同じように、M-1グランプリに挑戦した経験が、教える子の人生を明るく照らすきっかけになればうれしいです。舞台での練習も失敗も、すべてが財産。そんな経験を重ねたゼミ生なら、きっと子どもたちに愛される、笑顔あふれる先生になると信じています。